

畜産試験場だより

和牛試験場

今や、世界的な肉不足のために、和牛の生産増強と、取引の近代化とは、この業界の緊急テーマとなっている。和牛はかつてない高値を持続し、しかも近い将来において、値下りの材料は見出せない。生産者にとって、全く笑いの止まらないところである。しかしながら、昨年から今年にかけて、減少の度は極めて鈍って、大体底が見えたようではあるがとにかく現実には、年々和牛の頭数は減っている。一方では増産が強く要請され、他の一方では、牛は減っている。このための牛価高ではあっても、食肉の消費者価格がこれ以上高くなつては、もう到底消費がこれについて行けないというギリギリの線まで来ている。生産農家は生産技術の改善向上と経営の合理化とに努力して、少しでも生産コストを低減しなければならぬし、和牛や食肉の流通過程を扱う業界は、謂わゆる取引の近代化によって、消費の伸びを期待し、両々相まって、和牛の振興にあずかなければならぬという背景の下で、全国に唯一つの公立の和牛専門の試験研究機関として、当場の使命の重大なことを、改めて痛感している。こういう意味合いで、当場の概略を紹介して、読者各位の参考に供し、かつ、旧に倍して積極的に利用していただきたいと思って、筆をとった次第。

◆さて、試験場の使命はどうか？どんな気構えで場員一同頑張っているかを次によって御承知願いたい。

1 和牛の改良のセンターとして、国の機関（種畜牧場とか農試畜産部）と一般民間ブリーダーと縦の関係で連携を保ちながら、直接もっている施設を利用し、または指導によって、和牛の改良に貢献すること。具体的には、①種雄牛を3頭繁養しての精液の配布、人工受精の実施、②種雄牛の育成配布（年間8頭の予定）、③つる牛造成の促進指導などが今の状態であるが、新しく、種雄牛の産肉能力後代検定

にも近く着手する手筈になっている。

2 和牛の利用促進のため、殊に「肉」の問題にしばられるが、各種肥育試験を行なって、農家がすぐ真似られる技術の普及に努めようとしている。試験研究とは言うものの、動物殊に大家畜を取扱うものとして、作物などと異り、気候風土などのデリケートな違いが、そんなに影響しないので、謂わゆる地域の特殊性はさほど大きくないという、制約の下で、肥育試験などは次のような立場で行動することが正しい姿勢であろうと確信している。即ち、試験官やフラスコを用いての基礎的なものは国の然るべき機関にお願いして、国の地区農業試験場と密接な連絡を保ちつつ少しでも地域の特殊性を盛り込んだ、時代に即応したテーマを分担するという形で、農家からは、一見して平易に自らの経営にとり入れられるようなものを試験することだと思ふ。もちろん、これには大学など関係機関の総べての知恵が結集されるようにして。

3 高冷地の草地農業推進のモデル施設として、もっと徹底したい。かりに動物を対象にしては特別大きな特殊性が見出せないとしても、飼料作物や牧草を相手に、この高冷地のような条件のところで、最も良い作物とか栽培技術とかを把握して、一般へお役に立ちたいという考えで、悪条件と取り組んでおる。これは現在草作りが、畜産の重要な基礎だというタイミングの問題もあって、今最も力を入れているものの一つである。

4 人の養成も、力を入れなければならない。現在1年間の長期講習生として、5名入場しているが、これでは十分でないので、将来自営あるいは、郷里で和牛振興の推進力となる目的の若い人の多数入場を希望している。また、講習会一般参観の少しでも多いことがとりもなおさず、当场が各位にお役に立

岡山畜産便り 1960.10

つ所以であるので、このようなことの多いことを願っている。

◆つぎに、現在の業務部の機構は、次のように分かれているが、これでは決して十分とは言えないので、近く中に何とか充実させたいと念願している。即ち

育種研究室——繁殖鶏、育成鶏

利用 〃 ——肉畜係、畜力利用係

飼料 〃 ——栽培係、加工利用係、飼料係

牧野 〃 ——牧野係

経営調査室——経営係、調査係

衛生研究室——衛生防疫係、人工受精係

指導係 ——講習生係、講習会係

◆なお、現在の試験テーマの主なものは次のとおり。

(1) 幼令肥育試験

(2) 自給飼料を主体とした普通雌牛肥育試験

(3) 濃厚飼料無給与による若牛肥育試験

(4) 種雄牛の産肉能力後代検定

(5) 種雄牛「千代田」号の後代検定

(6) 放牧牛の生態と慣行牧野の調査

(7) 飼料作物の栽培地の相違が、その生育に及ぼす影響についての試験

(8) ビート・トップの飼料化について

(イ) ビート・トップ給与試験

(ロ) ビート・トップ・サイレージの調整および給与試験

(9) 山野草の草生改良試験